

平成 30 年間で変わったこと

武正 文夫^{*1}
Takemasa Fumio

1. はじめに

2019年4月30日には、江戸時代後期の光格天皇以来約200年ぶりとなる天皇陛下の譲位が行われ、翌5月1日に改元される。新しい元号は4月1日に公表される予定なので、本稿をお読みの皆様は既にご存じであろう。執筆時点では、巷は新元号予想で盛り上がっている。やれ、頭文字のアルファベット表記が明治、大正、昭和、平成のM、T、S、Hとかぶらないように、一文字目はマ行、タ行、サ行、ハ行の文字は避けるとか、安、永、栄、光、和の漢字が入るとか。いろいろな説や予想が飛び交う。面白かったのは「西暦」という元号だけはやめて欲しい」と言う冗談であった。「西暦3年は西暦何年？」とか言っている光景が頭をよぎる。みんな自由に2文字の漢字当てを楽しんでいる。さて、どのような元号となるであろうか。いずれにしても、新しい時代が平和で豊かな良い時代になることを祈る。

前置きが長くなった。平成最後の記念となる号にこの機会をいただいたことを感謝しつつ、時代の節目にあたり平成30年間で私の身の回りに起きた大きな変化を振り返りたい。激動の平成時代、政治・経済・文化などさまざまな視点があるが、ここではコンピュータ技術が私の生活に及ぼした変化に焦点を当てる。結論や教訓などはなく、ただ思いつくままをつらつらと書き綴る。あくまでも私の主観、経験に基づくことなので、皆様それぞれの経験と対比して、異論、反論、共感を気軽に楽しんでいただけたら幸いである。

2. 何が変わったか

(1) 人と人がリアルタイムにつながる

まずは携帯電話の話。日本の携帯電話は昭和の終わり1980年代の自動車電話から始まる。当時の機械は高価で1~3kgと重く、セレブが大きな機械を肩から下げて使っていた印象がある。1985年の通信事業自由化で複数の事業者が参入したこともあり、急速に機器の小型軽量化が進んだ。1995年には廉価なPHSサービスも始まり、普及が加速した。総務省の統計によると、携帯電話など移動系通信の契約件数は単純合計で2012年に1.36億件に達し、日本の総人口約1.28億人を超えた。一人一台時代の到来である。2018年は2.37億件と人口の約1.88倍にもなっている。平成の30年間で、いわば、携帯電話で個人と個人がつながり、いつでもどこでも、たとえ海外とでも、リアルタイムにコミュニケーションが取れる社会となった。一方、公衆電話の数は2005年の39.3万台から2017年は15.9万台と激減、昔は待ち合わせでよくお世話になった駅の伝言板も、今は見かけなくなった。

(2) 人と世界中の情報につながる

次はインターネット。日本のこの分野は1992年から2006年の15年間に急成長した。1992年にインターネットサービスプロバイダ(ISP)、1994年にダイヤルアップIP接続のサービスが始まり、1998年にはインターネットの人口普及率が10%を超えた。1999年にADSLが登場。2000年にはGoogle®やAmazon®の日本向けサービスが始まった。2003年頃には家庭向け光回線が登場し、普及率が60%を超えた。2005

*1: 取締役 計測事業部長

年に YouTube® や iTunes® Music Store の日本向けサービス開始、2006 年には普及率が 70% を突破した。2008 年に iPhone® が発売されスマートフォン時代に突入した。この年、Facebook® と Twitter® が日本向けサービスを開始し SNS が一気に広がった。LINE® は 2012 年に始まり、2014 年には利用者数が 5000 万人を突破した。まさに Dog Year、インターネットは急速に我々の生活に浸透していった。

電車の中の風景も大きく変わった。電車の中で新聞を読む人が激減、ほとんどの人がスマートフォンやタブレットの画面と睨めっこをしている。通勤の車内で映画鑑賞やスポーツ観戦ができる時代が来ることなど、想像もしていなかった。

世界中の情報に瞬時につながるインターネットが我々の生活に及ぼした効用は計り知れない。反面、情報セキュリティのあり方など、新たな社会問題も発生した。

(3) 職場や家庭で手軽に印刷・コピーする

プリンタの普及率データは見つからないが、内閣府の消費動向調査によると、PC の二人以上世帯保有率は 1989 年に約 11.7%、2001 年に 50% を超え、2013～2018 年までは 78% 前後でほぼ一定となる。同じ統計で 2018 年のデジタルカメラの保有率は 68.2%、携帯電話・スマートフォンの保有率は 93% である。PC を持たずにプリンタだけ持っている家庭は少ないと予想すると、今のプリンタの普及率は PC と同等の 70～80% 程度であろうか。いずれにしても、1996 年にカラーできれいに印刷できる廉価なインクジェットプリンタが発売されて以降、プリンタは年賀状や写真の印刷の用途で一般の家庭にも広く普及した。青焼き、ガリ版、プリントゴッコ® など見なくなって久しい。

(4) 写真・動画は撮ってすぐ見て・共有する

デジタルカメラは 1980 年代昭和の後期から発売されていたが、一般に普及したのは 1995 年に発売されたカシオ QV-10 以降であろう。Windows® 95 のブームで PC が身近になったこともあり、撮ったその場で見られるデジタルカメラは急速に市場を広げた。2005 年にはフィルムカメラと販売台数が逆

転し、以降フィルムカメラは激減した。

1999 年にカメラ付き携帯電話が発売された。写真を撮ってすぐメールできる「写メール®」の機能が主流し、2003 年にはカメラなしの携帯電話はほとんど姿を消した。近年は内蔵カメラの機能が向上し、デジタルカメラの市場を脅かしている。そういえば、シャッター音はいつから消せるようになったのだろう。

(5) IC カード 1 枚で日本全国を旅する

JR 東日本系の Suica® が 2001 年、私鉄系の PASMO® は 2007 年、交通系 IC カードの全国相互利用は 2013 年にサービスが開始され、切符を買う機会がめっきり減った。世の中はキャッシュレス化が進んでいる。なお、1990 年頃から自動改札が導入され、駅員さんが^{はさみ}鋏でカチカチ調子を取りながら切符を切る光景も昔のものとなった。

3. おわりに

ここにあげたこと以外にも、平成 30 年間で実感した大きな変化はまだたくさんある。コンビニ、宅配便、ネット通販、カーナビ、本や音楽のデジタル化などは発展、普及組、ブラウン管、OHP、フロッピー、レコード、カセットテープなどは淘汰された。他にもたくさん思いつく。平成 30 年間は結構長かった。

これからの 30 年間、またさらにその先には、どのような世界が待っているだろう。IoT、AI、VR、自動運転、民間宇宙旅行、仮想通貨、3D プリンタ、新エネルギーなど、既に始まっている変化もたくさんある。もっと、今は想像もできないわくわくするような社会になってくれるとうれしい。明るい未来となることを期待しながら筆を置く。長々と雑駁な話にお付き合いいただき、ありがとうございました。



取締役
計測事業部長
武正 文夫

TEL. 045-791-3519
FAX. 045-791-3542